

子育て家族の住まいと住環境に関する調査 報告書

－市内の幼稚園児の保護者を対象として－

2019年3月

多摩市都市計画課 住宅担当
大妻女子大学 社会情報学部
社会情報学科環境情報学専攻 松本研究室

1. 調査の目的および方法
 - 1－1. 調査の目的
 - 1－2. 調査の概要 調査時期、方法、回収率

2. 調査の結果
 - 2－1. 回答者の属性
 - 2－2. 回答者の住まい
 - 2－3. 地域の住環境
 - 2－4. 子育て期の住まいと住環境

3. 調査の分析および考察
 - 3－1. 子育て家族の住まいの特徴
 - 3－2. 子育て家族の住環境の特徴

おわりに

資料 調査票

1. 調査の目的および方法

1-1. はじめに

大妻女子大学地域連携プロジェクトの一環として、大妻女子大学社会情報学部 松本研究室と多摩市都市計画課住宅担当が連携し、多摩市における「子育て家族の住まいと住環境に関する調査」として、住まい方・居留意向について、アンケート調査を実施いたしました。2017年度には多摩市内の認可保育園および認定子ども園全23園の保護者の方々を対象として調査を行い、昨春、報告いたしました。引き続き、2018年度は全幼稚園の保護者の方々にご協力いただきました。配布・回収において、幼稚園・子ども園の方々にもご協力いただきました。ご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

1-2. 調査の目的および調査概要

本調査は、多摩市に居住する子育て世代の住まいの現状や住替えに対する意向を把握し、若い世代・子育て世代の転入・定住促進のための基礎資料とすることを目的として実施した。前年の保育園の保護者を対象とした調査の結果を踏まえ、調査対象は、多摩市内の幼稚園および子ども園（全9園、うち子ども園1園）に通う園児の保護者である。なお、幼稚園の場合、園児および保護者の居住地は必ずしも多摩市内ではないことから、回答には多摩市外の居住者も含まれている。

調査の概要は以下のとおりである。

調査時期：平成30年11月1日～15日

調査方法：質問紙調査

幼稚園・子ども園を通して、調査票の配布、回収を行った。

調査対象：多摩市内の幼稚園および子ども園 全9園（子ども園1園を含む）に通う園児（在園児2213名）の保護者に対し、世帯単位（兄弟姉妹のいる場合1世帯とする）で配布した。

回収状況：配布数2213票、回収数1158票 無効25票（有効回収数1133票）
有効回収率 51.2%

2. 調査の結果

2-1. 回答者の属性

問1 回答者の性別

回答者全体の95.6%(1083人)が「女性」、4.3%(49人)が「男性」でした。

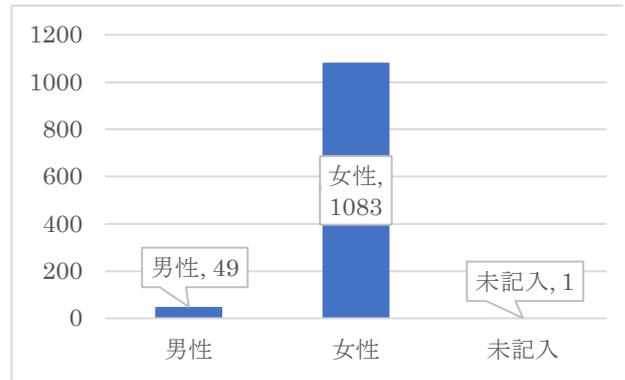


図1 回答者の性別 n=1133

問2 回答者の年齢構成

「35歳～39歳」が最も多く38.9%、次いで「40歳以上」が35.8%、3番目に多い年齢層が「30歳～34歳」で、21.3%でした。

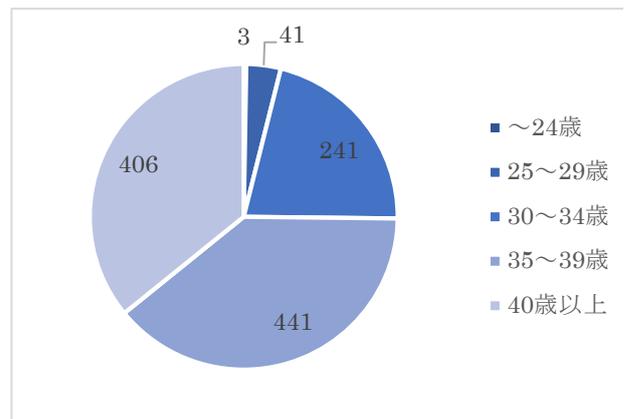


図2 回答者の年齢 n=1133

問4 同居家族の人数

「4人」が最も多く55.7%、次いで「3人」が20.0%、「5人」が19.2%でした。「3人」「4人」「5人」と回答した合計は94.9%を占めている。

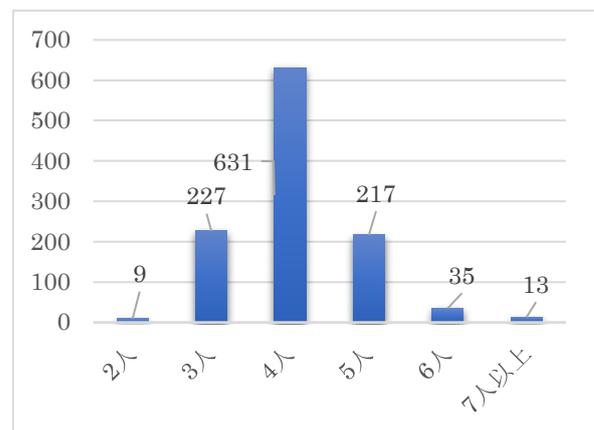


図3 同居家族の人数 n=1133

問5 家族構成

多くが「夫婦と子ども」の家族構成で、回答者全体の92.3%を占めている。3世代で暮らす家族が非常に少ない。

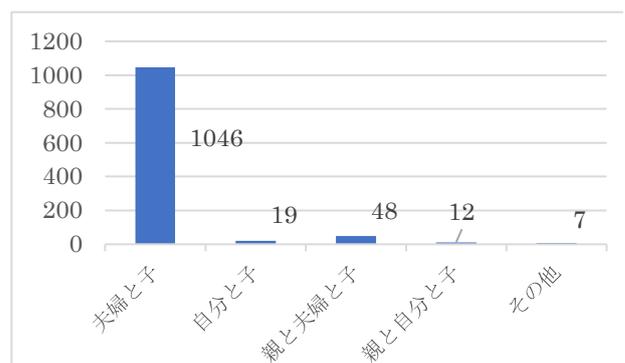


図4 家族構成 n=1133

問6 住まいの地域

回答者の74.2%が多摩市内に居住している。多摩市外の25.8%の居住地域は、多摩市に近接している川崎市、八王子市、稲城市が多くなっている。

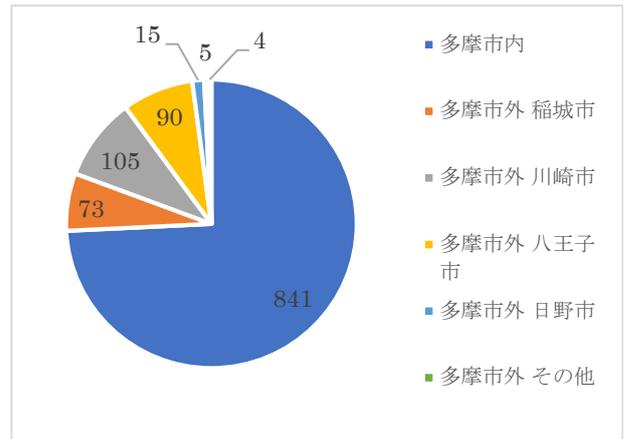


図5 住まいの地域 n=1133

問7 最寄り駅とそこまでの所要時間

最寄り駅は図6のとおり、永山駅と多摩センター駅で50.4%を占め、次いで聖蹟桜ヶ丘駅の19.6%で、3駅合わせて約7割である。小田急多摩線沿線のはるひ野駅、唐木田駅、京王相模原線沿線の若葉台駅、堀之内駅を含めると91.5%となっている。「その他」の駅では、多摩モノレール線や京王線などの駅が最寄り駅として挙げられている。

最寄り駅までの所要時間(図7)は、徒歩のみ、バスのみ、徒歩とバスの組み合わせ(3タイプ)を含め、「10~15分以内」が最も多く30.2%、次いで「5分~10分以内」が23.1%でした。

その結果、自宅から最寄り駅まで15分以内の回答者が全体の58.6%となっている。一方、「20分以上」との回答者が19.4%にのぼり、マイカー利用を主とする世帯が少なくないと思われる。

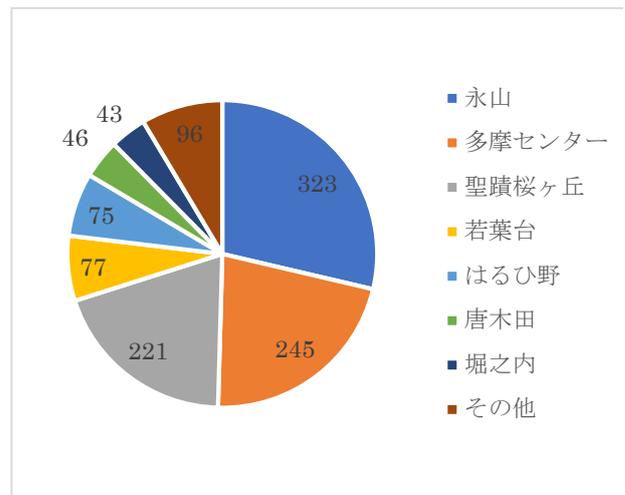
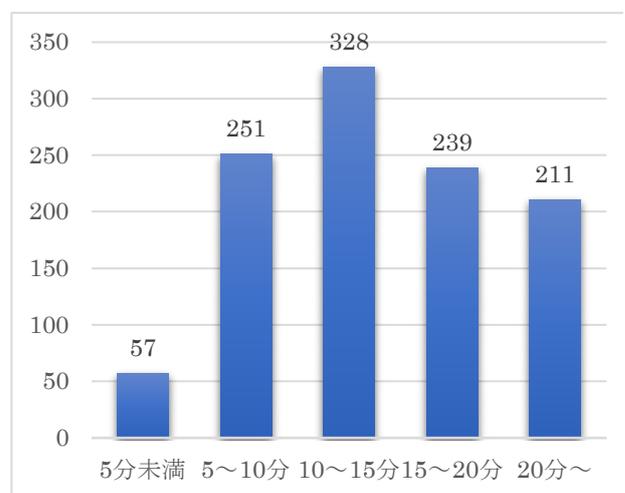


図6 最寄り駅 n=1126



問7 最寄り駅までの所要時間 n=1086

問8 幼稚園までの所要時間と交通手段

自宅から幼稚園までの所要時間は、平均14分でした。交通手段は、図8のとおり、「幼稚園バス」の利用者が50.2% (569件)を占め、次いで「自転車」の21.4% (243件)となっている。

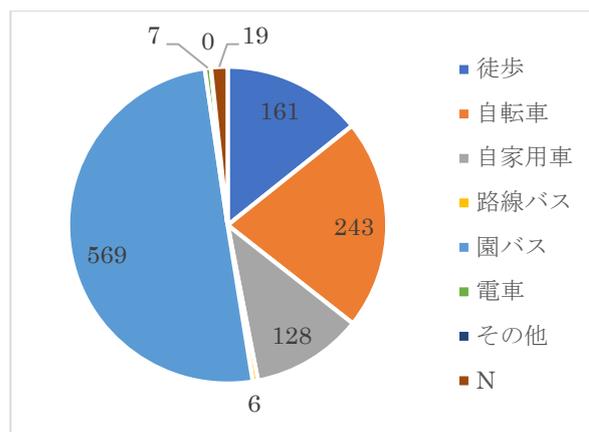


図8 幼稚園までの交通手段 n=1133

問9 回答者の就業状況

回答者の就業状況は、回答者に女性が多い(95.6%)こともあり、「専業主婦」が59.2%を占めている。しかし、「フルタイム」「パートタイム」「自営業」を合わせると40.8%となり、4割の回答者は何らかの仕事をしていることがわかる。また、「その他」のなかには、育児休業中や時短勤務中、「在宅ワーク」などの回答も含まれており、これらを含めると仕事をしている割合は4割を超える。さらに、「ときどき仕事をしている」「職探しをはじめた」などの記述もあり、「専業主婦」と回答したなかにも仕事をしている回答者が含まれているものとみられる。

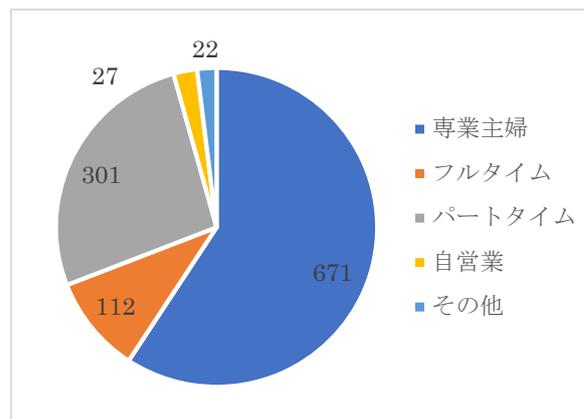


図9 回答者の就業状況 n=1133

問9 回答者と配偶者の通勤先と通勤時間

回答者に女性が多いこともあり、回答が少なかった。回答された方(453件)の通勤先は、多摩市内が50.6%であった。一方、配偶者(多くは男性)の通勤先は多摩市内が17.0%で、8割以上が多摩市外への通勤となっている。

通勤時間をみると、回答者では30分以内が58.9%であるのに対し、配偶者では10.5%にすぎない。一方、60分以上は回答者では19.3%に対し、配偶者では67.5%にのぼる。

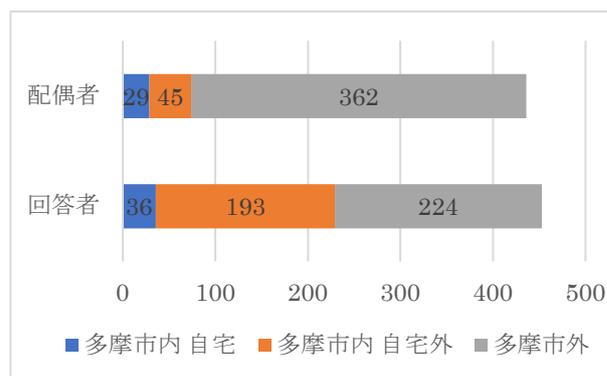


図10 通勤先 (回答者 n=453, 配偶者 n=436)

多摩市外の通勤先をみると、回答者では八王子市、稲城市、町田市、川崎市で、48.4%と約半数となっている。これに対し、配偶者では千代田区、港区、中央区、新宿区、渋谷区などの都心区への通勤が43.5%、このほかの区も合せると60.4%となっている。近隣市(稲城、町田、八王子、川崎)は15.6%にとどまっている。

問10 家事の分担

「炊事」、「洗濯」、「育児」全ての項目で、「主に自分」（回答者）が担う場合が多く、分担の偏りが見られました。回答者の多くが女性であること、その半分以上が「専業主婦」であることから、多くの家事を担っているのが女性であると思われる。

「炊事」では91.4%、「洗濯」では88.2%、「育児」では80.8%を「主に自分」が担うという回答でした。「主に自分」が担う割合が幾分下がるのは「育児」でした。「ほぼ均等に分担」、「主に配偶者」が担うとした回答が「育児」の場合は「炊事」、「洗濯」よりも相対的に多くを占めている。

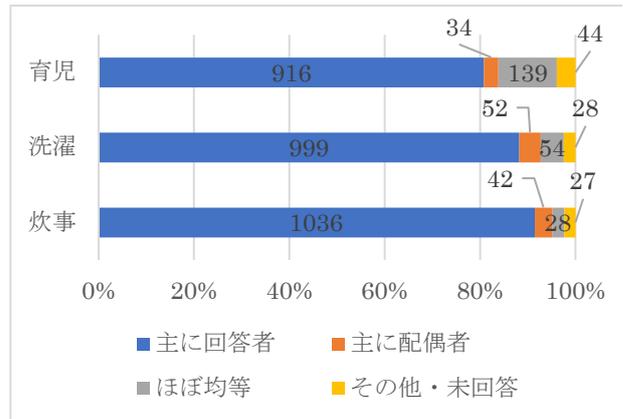


図11 家事の分担 n=1133

2-2. 回答者の住まい

問11 住宅のタイプ

「持ち家の集合住宅（マンション、団地、タウンハウス）」が43.2%と最も多く、次いで「持ち家の一戸建て」が33.2%でした。

また、住宅の所有関係別にみると、持ち家に居住する回答者が全体の76.3%を占めている。

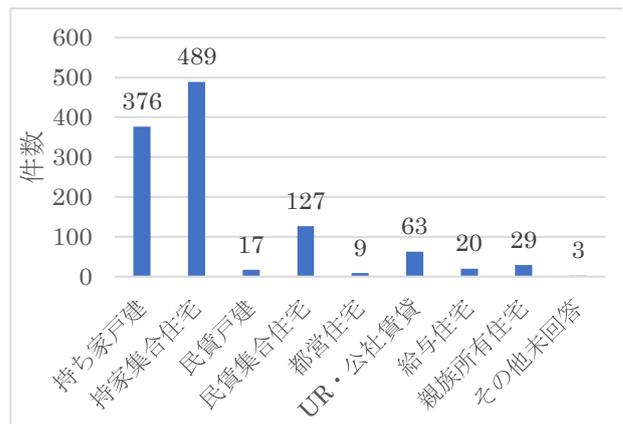


図12 住宅のタイプ n=1133

問12 住宅の広さ

回答者（716件）の平均は、89.62㎡であった。回答は20㎡から977㎡とかなり幅がある。

「3LDK」が最も多く45.6%、次いで「その他」が31.5%でした。両者を合わせると77.1%を占めている。過半数の家族の家族人数（問4）が4人であることから、室数としてはゆとりがある家族が多いことがわかる。しかし、3人家族で2DKに居住している可能性もあることや、室数はあるものの、1室が狭いことも考えられる。

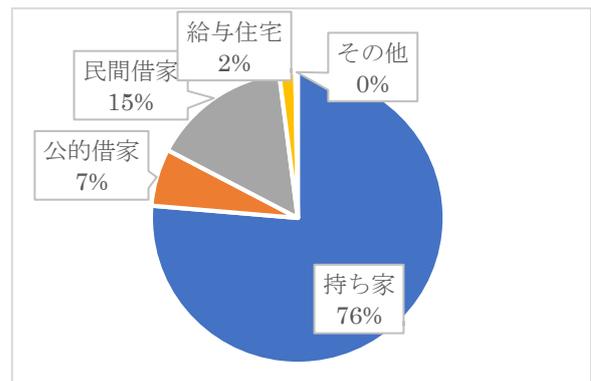


図13 住宅の所有関係別件数 n=1133

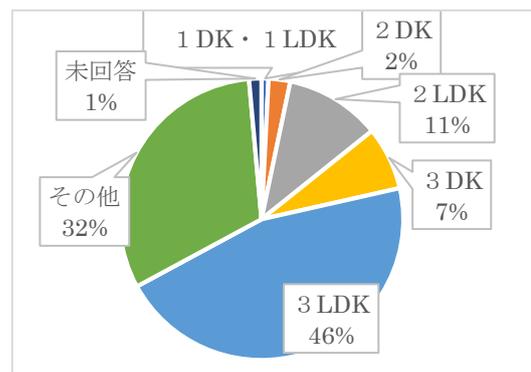


図14 住宅の広さ n=1133

問 13 住宅選択時の重視事項（複数回答）

（図 15）

「住宅購入価格・家賃の支払い」が最も多く 53.8%でした。次いで重視されていた項目が「最寄り駅への近さ」38.4%、「日当たり・風通しのよさ」34.3%、「間取り」32.3%、「自然環境の良さ」30.4%と 30%以上の回答者が重視するとしていました。このほか、「親など親族の家との距離」（親族距離）28.8%、「広さ」27.7%、「買物等の利便性」21.8%、「新築であること」21.3%でした。

一方、「防犯性」「防災性」や「治安のよさ」、「遮音・防音性」などの設備関係の項目などで重視の割合が低くなっている。

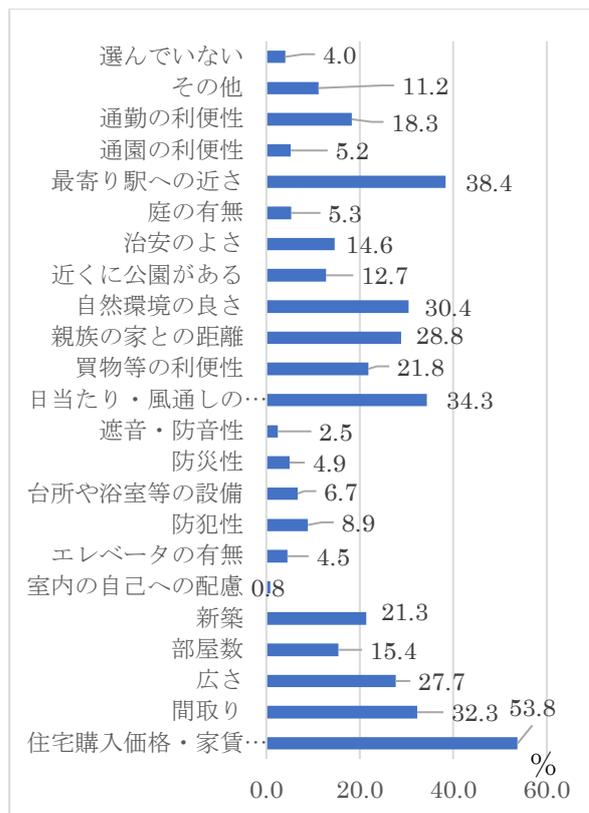


図 15 住宅選択時の重視事項比率 n=1089

問 14 居住開始時期（図 16）

約半数の 47.6%が、2011 年から 2015 年の間に居住を始めている。さらに、2016~2018 年を含めた 2011 年以降をみると、69.2%にのぼり、ここ 10 年程度の間に住み始めた回答者の多いことが判る。

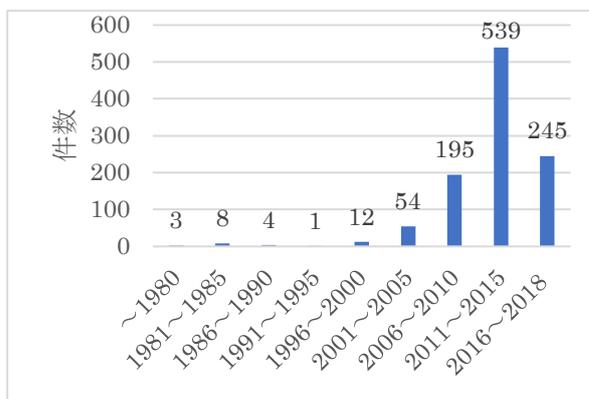


図 16 居住開始時期 n=1061

問 15 現在の住まいへの評価（図 17）

どの項目も評価が高く、全ての項目で、「満足」「やや満足」を合わせて 70%を超えている。最も評価が高い項目は、「日当たりや風通し等の居住環境」で、53.3%が満足と回答した。また、これに「やや満足 32.2%」を加えると 85.5%となり満足の割合が高いことが判る。「室内の安全性」「部屋数」は「満足」「やや満足」で、9 割を占めている。

「室内での事故などの安全性」では、「満

他の項目でも満足の傾向が強く、「住まいについての総合評価」で満足の割合が 86.9%（満足 35.7%、やや満足 51.2%）と多くを占めている。

一方少数であるが、「不満」の回答が多かったのは、「広さ」6.9%、「設備」6.8%、「遮音・防音性」6.6%である。特に、「やや不満」を合わせると、「遮音・防音性」28.0%となっている。住まい選びでは重視されてい

かった項目で、「やや不満」に感じているものと思われる。

「不満」の回答は少ないものの、「広さ」「経済性」「間取り」「設備」などで、「やや不満」との回答がみられ、両者を合わせると2割程度になる。

問 16 親族近居 (図 18)

近くに居住する親族のいる回答者が多く、親が近くに住む回答者が58.1% (645人) を占めている。兄弟・姉妹、親戚を併せると、79.1%が、親族が近くに住んでいると回答している。一方、19.9%の回答者が「親族が近くにいない」と答えている。

問 17 親族との距離

徒歩圏内に親族の住まいがあるのは、19.1% (207人) であり、最も回答の多いのは車利用の568人 (52.3%) である。そのうち377人が30分以内であり、60分以内まで広げると494人である。

問 18 親族との行き来と頻度 (図 19)

親族との行き来があると、91.4%の回答者が答えている。そして、その頻度は「年数回」が最も多く28.8%、次いで「月1回」が25.3%となっている。両者を合わせると54.1%と、約半数である。

問 20 親族との行き来の主な目的 (複数回答 n=1089)

最も多いのは、「家族の交流」(62.2%、887人)であった。次いで、「子育ての手助け」(28.6%、408人)である。

一方、「親の介護などの支援」「親の生活の手伝い」は、合わせて5.2%にすぎず、少数である。

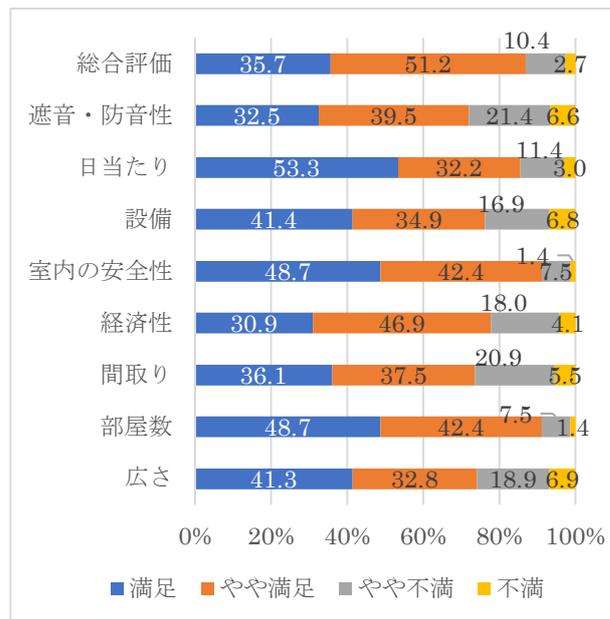


図 17 現在の住まいへの評価

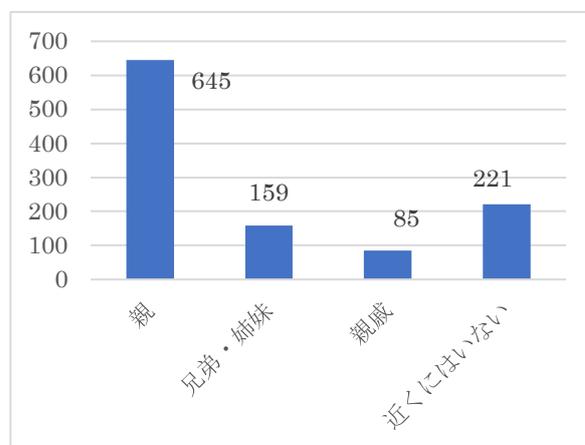


図 18 近居の親族 n=1110

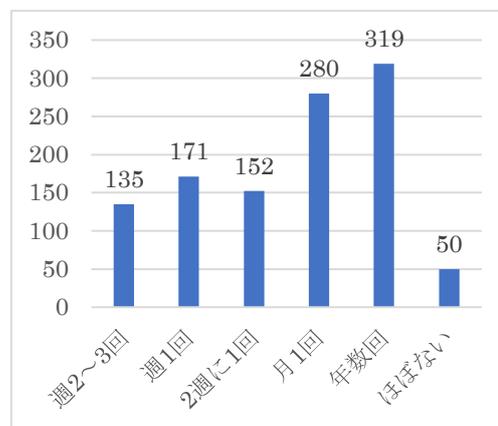


図 19 近居親族との交流頻度 n=1107

2-3. 地域の住環境

問 21 地域住環境への評価 (図 20)

全体として満足が高いことがわかる。とりわけ、「緑の多さや街並みのよさ」(緑、街並み)への満足度が非常に高く、「満足」61.6%と「やや満足」33.9%を合わせて95.5%となっている。このほか、「買い物利便性」「交通利便性」「通園・通学の利便性」も満足度が高い。

一方、「不満」の回答が最も多かったのは、「親族近居」である。交流を求めているものの、親族の住宅との距離が遠いことなどが窺われる。「やや不満」の多い項目は、「歩行者の安全性」(25.2%)であり、「不満」6.6%と合わせると、31.8%にのぼる。このほか、「不満」「やや不満」を合わせると2割程度であるのは、「地域施設」「医療施設」「子育て支援施設等」「治安や犯罪発生に対する防犯性」(防犯性)である。これらの項目では、ほぼ同程度の「満足」との回答もあり、住まいのある地域の環境によって回答が分かれているのではないかとと思われる。

全体としては満足度が高く、「総合評価」では「満足」「やや満足」を合わせて89.9%にのぼっている。

問 22 居住継続性(図 21)

「住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせると、88.7%(1001人)となり、居住継続希望が多くを占めている。

問 23-1 居住継続の理由 (図 22)

(問 22 で「住み続けたい」を選択した回答者、複数回答 n=567)

「緑が多く、自然環境が気に入っているから」(緑)が最も多く、63.2%にのぼる。

次いで「持ち家だから」が多く、「子どもを転校させたくない」が続く。

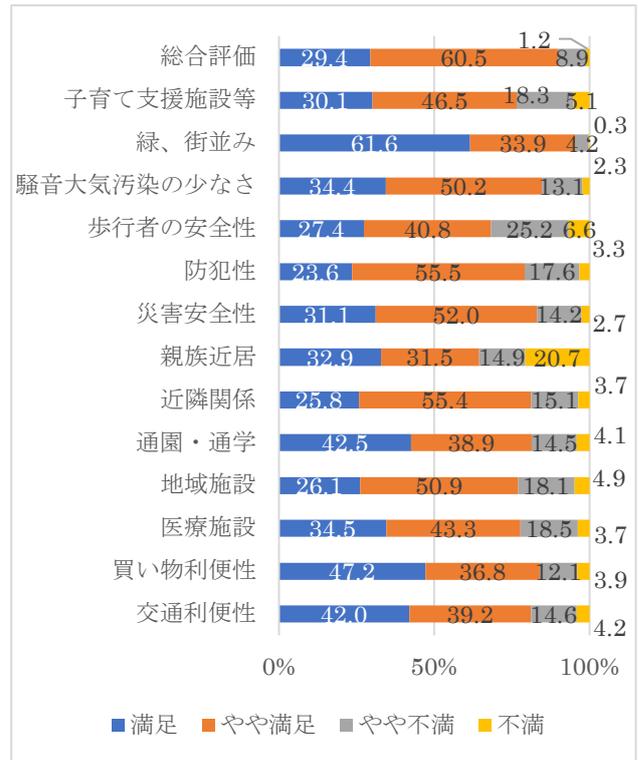


図 20 地域住環境への評価

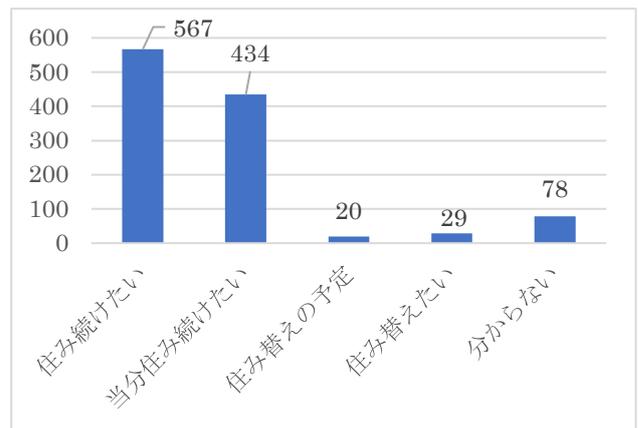


図 21 居住継続性 N=1128

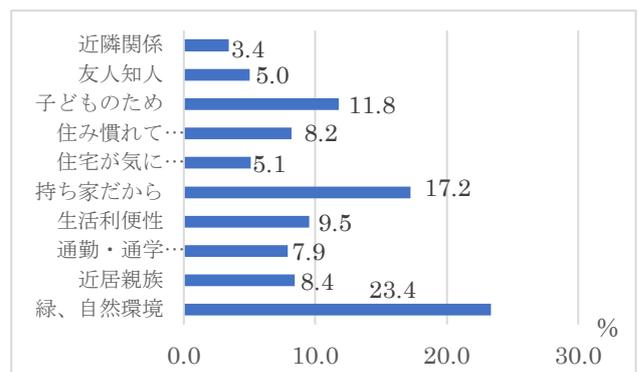


図 22 居住継続の理由 (n=1001)

問 23-2 その他・居住継続の理由 (自由記述)

272人から回答があり、回答者(1133票)のうち、24.0%に自由記述の回答があった。その一部を紹介する(原文のママ)。

- ・子育てをする上で多摩の遊歩道、公園の多さはとても魅力です。道路を渡らずに通学できるのは安心。
- ・生活するのに困らない便利さはあるけれど外から人が集まりすぎない程の良さが気に入っています。
- ・子育てを通じて友人も増え、子供も少しずつ友達を増やしたり、町の場所を覚え、慣れてきているから。
- ・自然環境が良く、すぐ公園に行けて子供も親も心身共に安らげる。公園も人が多すぎずゆっくり遊ばせられるので良い。
- ・車道と歩道が分かれていて子供を連れている時に安心。
- ・私も夫も幼少期から多摩市で育ってきて慣れ親しんでいるし、環境を気に入っているの。
- ・都会すぎず田舎すぎない、都内も比較的近い。道が広い、子供の遊び場、娯楽施設などが多いので子育てしやすい。

問 24 住み替えたい理由 (図 23)

(問 22 で「住み替えたい」を選択した回答者 n=49、複数回答)

「住環境が気に入らない」(17.7%)が最も多く、次いで「一戸建てに住みたいから」(13.9%)、「親や親族の近くに住みたいから」(12.7%)で、上位3つの理由でした。

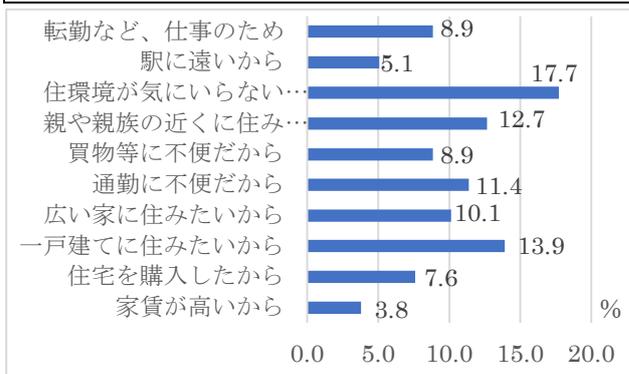


図 23 住み替えたい理由

問 25 希望する住替え先

28.6%が「(多摩市以外の) 東京都市町村部」を住替え先として希望しており、次いで18.4%が「東京23区」でした。

その理由をみると、「実家・地元に戻る」や「主人の実家」「義理の親の近く」が多く、次いで「通勤の利便性」を挙げています。

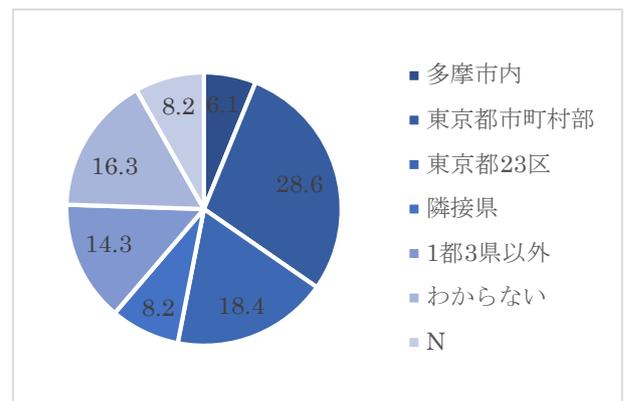


図 24 住替え先 (n=49)

2-4. 子育て期の住まいと住環境

問 27 子育て期に必要な住宅の条件

(n=1039 複数回答) (図 25)

「負担可能な住宅価格・家賃」(住宅価格家賃)が最も多く61.3%、次いで「日当たり・風通し」(日当たり)が42.5%、「遮音・防音性」(遮音)が38.2%でした。



図 25 子育て期に必要な住宅の条件

問 28 子育て期に必要な住環境の条件

(n=1071 複数回答) (図 26)

「医院・病院が近い、診察が受けやすい」(診療)が最も多く61.8%、次いで「緑地や公園・遊び場が近い」(公園)が57.1%、「通学・通園時の安全性が高い」(通学通園安全)が37.3%、「治安・風紀がよい」(治安)が35.7%でした。

一方で、選択した回答者が少なかった項目は、「映画館などの娯楽施設が充実している」(娯楽施設)、「スポーツ施設が利用しやすい」(スポーツ施設)などでした。

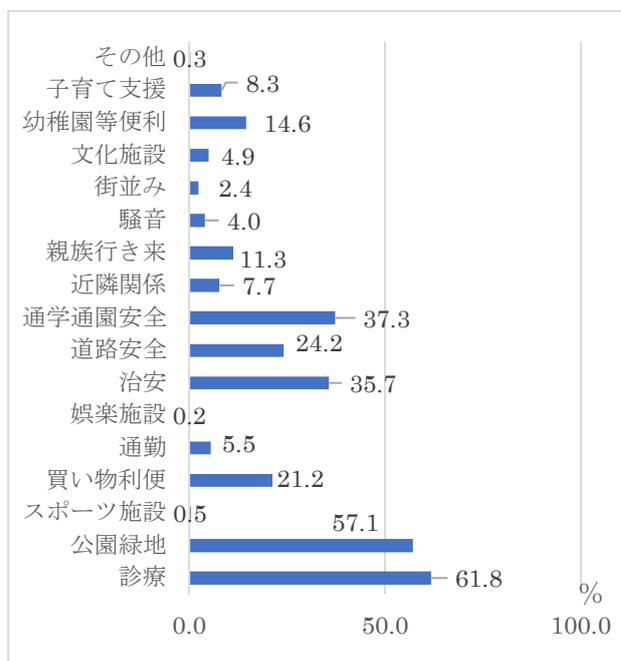


図 26 子育て期に必要な住環境の条件

問 34 親子で利用する施設選択時に重視する点 (n=1079) (図 27)

「子ども利用への配慮」(子ども利用配慮)が最も多く59.7%である。次いで「利用する際に費用」(費用)50.0%、「交通の利便性」45.9%、を選択している。

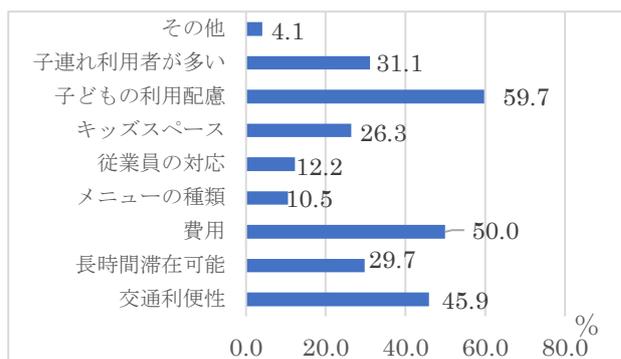


図 27 親子で利用する施設の選択で重視する点

問 35 居住継続や子育て世帯が多摩市に移り住むための有効施策（n=1065 複数回答）（図 28）

最も多いのは「遊び場等の整備・改善（公園・児童館など）」（遊び場整備）で 59.6%、次いで、「交通・移動環境の充実」を 39.6%、「就業環境の充実（市内で働けるなど）」30.0%が挙げられている。一方で「三世代同居への引っ越し費用・登記費用の助成」など親族との同居に関する助成の項目を選択する回答者は少数であった。

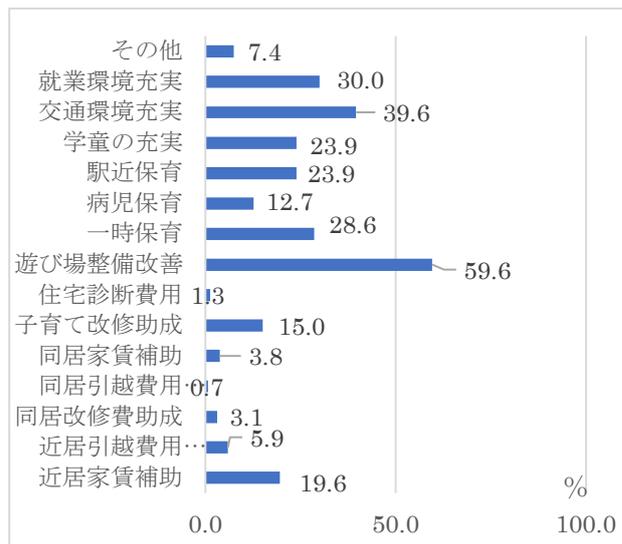


図 28 居住継続や子育て世帯が多摩市に移り住むための有効施策（n=1065）

問 36 多摩市に期待すること（自由記述）

609 人から回答があった。回答者(1133 票)の 53.8%から、自由記述に回答があり、関心の高さが表れている。一部を紹介する（原文のママ）。

- ・病児保育、一時保育も保育時間の拡充や子供や老人に優しい街づくり。暗い場所が多いので電灯を増やすなど安全性の確保もして欲しい。
- ・幼稚園は延長保育等が充実してきたため助かるが、多摩市には仕事はあるが子供を預ける場所が少ない。特に小学校低学年の預け先が少ないため、長時間働きたくても働けない。学童を増やさない限り、もっと人は増えないと思う。
- ・幼稚園の選択肢がたくさんあり、お友達と遊べる児童館も多く、幼児も小学生も過しやすいです。医療費も上限 200 円なので助かっています。
- ・古い集合住宅の耐震対策、リノベーション。高台が多いので交通の利便性アップ（子育て世代のバス代の見直し等）、バス本数を増やす。
- ・緑が多いところが良い所でもあり、安全面で心配な部分でもある。子供達が安心して遊べる児童館のように、室内や外で大人の目があるところが増えてほしい。防犯カメラもあらゆるところに必要だと思う。

3. 調査の分析および考察

3-1. 子育て家族の住まいの特徴

多摩市内の全幼稚園・子ども園の保護者を対象として、質問紙調査を行った結果、51.2%の回収率であった。回答者(1133票)の特徴は、以下のとおりである。

- ① 回答者の持ち家率は76.3%と高く、その内訳をみると、「持ち家の共同住宅(マンション、団地、タウンハウス)」が多く(43.2%)、それ以外が一戸建て住宅(33.2%)となっている。
- ② 住宅の広さは、3LDKが45.6%を占めており、4人家族が主流であることから、居住水準は一定以上の世帯が多いと考えられる。
- ③ 持家世帯が多いこともあり、住宅選択では、当然ながら経済性が最も重視され、次いで「最寄り駅への近さ」となっている。それ以外では、「日当たり・風通しのよさ」、「間取り」「自然環境の良さ」が選択時の重視事項として挙げられている。特出すべきは、「親族との距離」(28.8%)であり、子育て家族の特徴と考えられる。
- ④ 居住年数は、89.9%の回答者が2006年以降からの居住であり、最も多くの回答者は2011~2015年から住み始めたと回答している(49.5%)。子育てを始めて現住宅に住み始めた回答者が多いと考えられる。
- ⑤ 現在の住まいの評価は、満足度が概ね高い。総合評価では「満足」「やや満足」を合わせると86.9%、項目別にみても7割以上が「満足」あるいは「やや満足」となっている。特に、「室内の安全性」は91.1%と満足度が最も高く、次いで「日当たり・風通し」で85.5%である。一方、少数ではあるが、「不満」をみると、「遮音」「間取り」「広さ」が挙げられている。
- ⑥ 子育て期に重視されている「親族との距離」「交流頻度」「行き来の交通手段」では、58.1%が親との近居をしており、行き来を車で月1回程度しているとみられる。一方で、19.9%が近居する親族がいないと回答している。

3-2. 子育て家族の住環境の特徴

地域の住環境についての評価は、以下のとおりである。

- ① 総合評価では89.9%の回答者が「満足」あるいは「やや満足」と答えている。特に「緑の多さ、街並みのよさ」の満足度が最も高く、「やや満足」をあわせて95.5%となっている。次いで「大気汚染・騒音のなさ」が挙げられている。これは、多摩ニュータウンならではの結果と考えられる。一方、満足度がやや低いのは、「親族との近居」「歩行時の安全性」が指摘され、「不満」「やや不満」を合わせると3割程度となっている。
- ② 住環境の満足度の高さもあって、「住み続けたい」との回答は「当分住み続けたい」を合わせると90%を超えている。

- ③ 「住み続けたい」理由は、「緑の多さ」「持家だから」が多く、次いで「子どものため」が挙げられている。
- ④ 子育て期に必要な住宅の条件として、「価格・家賃」「日当たり」「遮音」が挙げられている。住環境の条件としては、「診療」「公園」「通学通園時の安全性」「保育園」「治安」が多く選択されている。

おわりに

自由記述欄への回答が多く、とりわけ「多摩市への期待」では、272人から回答があった。回答者(1133票)の24.0%から自由記述に回答があり、関心の高いことが確認された。特に子育てをするうえで公園緑地などの自然環境と歩行者専用道のあることなどのニュータウンならではの環境を評価している一方、ニュータウン外の居住者からの歩行時の不安などが指摘されている。また、子育て支援などのソフト面や住環境整備などへの期待も寄せられた。

今回の調査では、回答者の持ち家率が高いことから、住宅や住環境への評価は比較的高く、「住み続けたい」居住者の回答が多くを占める結果となっている。こうした回答者の属性を踏まえて分析しても、調査結果の「緑の多さや街並みの良さ」への評価や、「住み続けたい」との回答は高いと考えられる。今後、周辺他市の同様の調査結果とも比較するなど、今回の調査結果における多摩市の特徴を明らかにする必要があると考えている。

保育園への協力を得た昨年度の調査と比較すると、回答者の居住地による違い(歩行者専用道、公園緑地など)や、女性の就業環境への課題、通勤の負担の大きさが結果に表れていた。また、「多摩市への期待」についての自由記述欄では、住環境への評価とともに多摩センター駅周辺でのイベント開催が評価されているものと思われた。多摩ニュータウンの建設時の計画では、当然ながら「子育てをする住宅・住環境」を念頭においており、現在でも、子育ての環境として相応しい条件を備えている。それを子育て家族の回答者の多くが認めていることが確認されるとともに、ソフト面での対応への期待や住環境改善への意見が示されていた。今後、昨年度の調査と合わせて、より詳細な分析を行っていく予定である。

問い合わせ先：大妻女子大学社会情報学部 環境情報学専攻 松本研究室
多摩市都市計画課 住宅担当 TEL：042-338-6817 (直)